

UNION NEWS

<https://jrtu.jp>

東海旅客鉄道労働組合

東京本部 〒108-0075 東京都港区港南2-1-95
JR東海品川ビル3階3F (03)6718-1251
名古屋本部 〒453-0002 名古屋市中村区名駅1-1-13 (052)586-3127

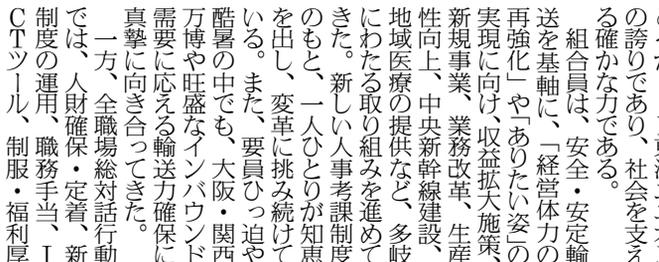
JR東海ユニオン

(1部20円)組合員の購読料に含む

発行人 鎌田 隆司 / 編集人 伊藤 大輔

第40回定期中央委員会を開催!

~当面の活動方針を賛成多数で決定~



2026年が始まりの1か月、新たな執行体制のもとで中央本部も半年を迎えた。日本の大動脈輸送と地域公共交通、さらには名古屋地区の地域医療という極めて重要な使命を担い、昼夜を問わず最前線で職務を全うしている組合員の皆さん、そしてご家族の皆さんに深い敬意と感謝を申し上げます。皆さんの不断の努力こそが、JR東海ユニオンの誇りであり、社会を支える確かな力である。

組合員は、安全・安定輸送を基軸に、「経営体力の再強化」や「ありたい姿」の実現に向け、収益拡大施策、新規事業、業務改革、生産性向上、中央幹線建設、地域医療の提供など、多岐にわたる取り組みを進めてきた。新しい人事考課制度のもと、一人ひとりが知恵を出し、変革に挑み続けている。また、要員ひっ迫や酷暑の中でも、大阪・関西万博や旺盛なインバウンド需要に応える輸送力確保に真摯に向き合ってきた。

一方、全職場総対話行動では、人財確保・定着、新制度の運用、職務手当、ICTツール、制服・福利厚給が求められる。第二に組織の活性化。従

生、中央幹線建設に係る総工事費の適時開示、年末手当など、多くの声が寄せられている。本委員会は、上期を総括し、2026春闘を含む下期方針を決定する極めて重要な場である。課題解決の糸口は現場にこそある。主張すべきは堂々と主張し、行動すべきは躊躇なく行動するという姿勢のもと、積極的な討議をお願いしたい。

JR東海ユニオンは、綱領と運動方針に加え、10年先を見据えた中期目標を策定してきた。現在の「UNION FUTURE ↓2027」は、最終段階にあり、これまでの取り組みと社会変化を踏まえ、次期中期目標の策定に向けた議論を進めていく。未来を自らの手で切り拓くという強い意志を、改めて共有したい。

ここで4点申し上げる。

第一に安全の確立。JR全体で死亡災害が相次ぎ、東海管内でも4年連続で死亡災害が発生している。命の危険にさらされる職場環境は断じて容認できない。ヒューマンエラーを前提に、行動の背景に踏み込んだ議論を進め、再発防止に向けて不断の努力を重ねていく。安全はすべてに優先する最重要課題であり、全組織を挙げ取り組む覚悟が求められる。

第二に組織の活性化。従

しない時代において、多様な組合員が互いの働き方や課題を理解し、助け合える組織づくりが求められる。労働組合は万能ではないが、組合員に寄り添い、最良の道を共に探る役割は揺るがない。組合員主体の組織をめざし、未来に責任を持つ労働運動を力強く進めていく。

第三にハートフルカンパニーの実現、すなわち2026春闘。物価高の中、実質賃金は3年連続でマイナスとなり、継続的な賃上げは社会的責務である。人財確保・定着の観点からも、労働価値の再評価が必要である。本委員会では、月例賃金総額20,800円以上(うち純ペア13,000円)、夏季手当3・1か月を要求する方針を提起する。組織の総力を挙げ、生活改善と処遇向上を必ず勝ち取る決意で臨む。

第四に政治活動。中央幹線、獣害対策、バリアフリーなど、企業単独では解決できない課題は多い。政治活動は目的ではなく手段であり、産業の持続的成長と組合員・家族の幸せのために、私たちの一票を行使することが重要である。無関心は力を失うことに等しい。未来を変えるのは、私たち自身である。

結びに、労働組合の力の源泉は組合員である。本日提起する方針を基に、各級機関が課題解決に向け議論を深め、労働組合らしい活動を展開していくこと。

2月3日、ホテルグランヴィア京都にて、第40回定期中央委員会を開催した。先の定期大会で確認したスローガンに加え、サブスローガンとして《絶対の安全、変える組織・つなぐ想い》、2026春闘生活闘争勝利、第51回衆議院議員総選挙勝利》を掲げ、当面の活動方針を賛成多数で決定した。

委員会では、中央本部が提起した2026春闘生活闘争はじめとする「UNION FUTURE ↓2027」に基づき、当面の活動方針に対し、19名の中央委員、特別中央委員から力強い補強意見が示され、最後に、鎌田中央執行委員長による団結カンパニーにより締めくくった。



鎌田中央執行委員長あいさつ (要旨)

2026年が始まりの1か月、新たな執行体制のもとで中央本部も半年を迎えた。日本の大動脈輸送と地域公共交通、さらには名古屋地区の地域医療という極めて重要な使命を担い、昼夜を問わず最前線で職務を全うしている組合員の皆さん、そしてご家族の皆さんに深い敬意と感謝を申し上げます。皆さんの不断の努力こそが、JR東海ユニオンの誇りであり、社会を支える確かな力である。

組合員は、安全・安定輸送を基軸に、「経営体力の再強化」や「ありたい姿」の実現に向け、収益拡大施策、新規事業、業務改革、生産性向上、中央幹線建設、地域医療の提供など、多岐にわたる取り組みを進めてきた。新しい人事考課制度のもと、一人ひとりが知恵を出し、変革に挑み続けている。また、要員ひっ迫や酷暑の中でも、大阪・関西万博や旺盛なインバウンド需要に応える輸送力確保に真摯に向き合ってきた。

一方、全職場総対話行動では、人財確保・定着、新制度の運用、職務手当、ICTツール、制服・福利厚給が求められる。第二に組織の活性化。従

生、中央幹線建設に係る総工事費の適時開示、年末手当など、多くの声が寄せられている。本委員会は、上期を総括し、2026春闘を含む下期方針を決定する極めて重要な場である。課題解決の糸口は現場にこそある。主張すべきは堂々と主張し、行動すべきは躊躇なく行動するという姿勢のもと、積極的な討議をお願いしたい。

JR東海ユニオンは、綱領と運動方針に加え、10年先を見据えた中期目標を策定してきた。現在の「UNION FUTURE ↓2027」は、最終段階にあり、これまでの取り組みと社会変化を踏まえ、次期中期目標の策定に向けた議論を進めていく。未来を自らの手で切り拓くという強い意志を、改めて共有したい。

ここで4点申し上げる。

第一に安全の確立。JR全体で死亡災害が相次ぎ、東海管内でも4年連続で死亡災害が発生している。命の危険にさらされる職場環境は断じて容認できない。ヒューマンエラーを前提に、行動の背景に踏み込んだ議論を進め、再発防止に向けて不断の努力を重ねていく。安全はすべてに優先する最重要課題であり、全組織を挙げ取り組む覚悟が求められる。

第二に組織の活性化。従

しない時代において、多様な組合員が互いの働き方や課題を理解し、助け合える組織づくりが求められる。労働組合は万能ではないが、組合員に寄り添い、最良の道を共に探る役割は揺るがない。組合員主体の組織をめざし、未来に責任を持つ労働運動を力強く進めていく。

第三にハートフルカンパニーの実現、すなわち2026春闘。物価高の中、実質賃金は3年連続でマイナスとなり、継続的な賃上げは社会的責務である。人財確保・定着の観点からも、労働価値の再評価が必要である。本委員会では、月例賃金総額20,800円以上(うち純ペア13,000円)、夏季手当3・1か月を要求する方針を提起する。組織の総力を挙げ、生活改善と処遇向上を必ず勝ち取る決意で臨む。

第四に政治活動。中央幹線、獣害対策、バリアフリーなど、企業単独では解決できない課題は多い。政治活動は目的ではなく手段であり、産業の持続的成長と組合員・家族の幸せのために、私たちの一票を行使することが重要である。無関心は力を失うことに等しい。未来を変えるのは、私たち自身である。

結びに、労働組合の力の源泉は組合員である。本日提起する方針を基に、各級機関が課題解決に向け議論を深め、労働組合らしい活動を展開していくこと。